



地域の子どもたちに学びの場を提供 子どもたちの未来のために活動したい

総合教養学科2年 木村 朱里

「ゆにこみゅーん」は「子どもたちに沢山の学びを提供したい」と願った舩井ゼミの有志で作られた団体です。「ゆにこみゅーん」という名称は、「ゆに」(＝university:大学)、「こみゅーん」(＝commune:親しく交わる)からとった造語で、地域に根付いて愛される団体になりたいという願いが込められています。

私は、地域活動を通して、若い人の地域離れ、子どもの学

力低下、ひとり親家庭の増加、北海道の進学率の低さなど様々な課題を目の当たりにしました。同時に、活動に参加していく中で、子どもには不思議な力があることも感じました。そこで、子どもたちを中心に据えることが地域活性化の鍵になると考え、子どもたちと地域を結びつける活動を計画し、「ゆにこみゅーん」の活動を始めました。

「ゆにこみゅーん」は大学生と子どもたち、そこに地域の人々や文化団体、企業や他地域の子どもたちとつながりを持つことで、イノベーションを起こし子どもたちに学校では体験できない様々な学びや視点を与え、未来の選択肢を増やすことを目的としています。

また、「全国の子どもたちにも学びの場を提供したい」「子どもたちの支援をしたいがどうしたらよいかわからない」という悩みを抱える大学生を支援したいという想いから、「ゆにこみゅーん」の活動の場を広げ全国展開するため、「ゆにこみゅーん」はNPO法人の認証を受けました。



現在、「ゆにこみゅーん」は滝川市江部乙地域を拠点に月に一度活動を行っています。その他地域での開催も予定しています。来春の國學院大學編入後には、東京での開催も視野に活動を進めています。今後はパラスポーツのポッチャ体験、北海道教育大学Paletteとの共催でのジェンダー問題について考える会等を企画しており、子どもたちの学びのために仲間たちと意欲的に活動していきます。

國學院大學 北海道短期大学部 学報

発行所
國學院大學
北海道短期大学部
〒073-0014
北海道滝川市
文京町三丁目1番1号
TEL
0125-23-4111(代)

幼児・児童教育学科
児童教育コース2年
伊藤 萌衣

合格体験記

私には理想とする教師像があり、小学校教師になる夢を叶えるため、國學院大學北海道短期大学部児童教育コースに入学しました。そして、この2年間、本学で様々な講義を履修する中で教育者としての知識や心構えを深めることができました。2年生では、教員採用一次試験、教育実習、実習中の教員採用二次試験ととても慌ただしい日々が続きましたが、それぞれに向けた準備を進めることができました。教育実習では、本学で行う模擬授業とは違い、自分の技量の不足を何度も反省する日々を過ごしましたが、指導教諭の先生方を始めと

小学校教員採用試験合格者数

令和3年11月1日現在

年度	計	國學院短大生		國學院大學に編入した学生等	
		北海道	その他	北海道	その他
2015	8	1	0	0	7
2016	5	2	0	1	2
2017	15	2	0	1	12
2018	19	2	2	6	9
2019	20	13	0	2	5
2020	11	8	0	0	3
2021	25	13	0	5	7

北海道公立小学校教員採用試験を受験した幼児・児童教育学科児童教育コースの2年生13名が、念願の合格を果たしました。一次試験合格者は27名でしたが、二次試験が教育実習と重なったことにより受験できなかった学生もあり、結果13名となりました。國學院大學へ編入した先輩も12名が東京(2名)・神奈川県(3名)・横浜市(2名)・北海道(5名)に合格を果たしました。

令和3年度北海道教員採用試験 小学校教員13名合格

生前期における直前対策講義、公開模試への参加も有効であったと思います。

また、1年次から実践的な授業及び近隣学校での授業参加、学習支援ボランティア等を通して教員としての資質能力の向上を図っています。今学校には、児童に寄り添い授業力のある教員が求められており、期待に応えることのできる人材育成に力を注ぎ、学生の夢実現に尽力しています。

するたくさんの先生方に三週間ご指導をいただき、教師としての新たな知識や技能を身につけることができ、教師になりたいという気持ちがより一層強まりました。また、教員採用二次試験当日にはとても緊張感に包まれましたが、お忙しい時期にも関わらず本学の先生方に何度も面接練習の時間を設けていただき、ご指導いただいたお陰で自信をもって受験に臨むことができ、無事採用試験に合格することができました。改めて振り返ると実習期間中の試験対策は苦難の連続でしたが、四月からは念願の小学校教師として働くことができますことに喜びを感じています。これまでご指導いただいた多くの方への感謝の気持ちを胸に、本学での様々な学びを最大限に生かしながら、これから出会う子どもたちのためにしっかりと頑張ろうと思います。



①骨組み

柱・桁・屋根が組み、廻り一面にクマイササが編み込まれる。



②新築祝い

炉の前で祭主を中心にカムイノミ（神への祈り）が進められる。



③ヌササン（祭壇）

コタンコロカムイ（村を守る神）など13の神が祭られている。



④チセの内部

アペオイ（開炉裏）が中心にあり、アペフチカムイ（炉の神）がいると信じられている。



⑤チセの全景（平成14年5月）



⑥チブ（舟）造り

たきかわチセアカラの会員・教職員・学生・市民らの協働でのチブ造り。



⑦完成したチブ（舟）



⑧川を走るチブ（舟）

ラウネ川（石狩川の支流）でチブサンケ（進水式）をしたチブ（舟）。

チセの思い出

たきかわチセ・ア・カラの会 事務局長 河野 敏昭

チセが完成した時、「まるで生き物のようだなあ」と感じた。約4トンを超えるクマイササで覆われた家は、新築というより、大学のキャンパスに昔から棲息する蟲のような存在感があつた。このチセづくりには多くの市民ボランティアの協力があつた。旭川台場の国有林にわけいり、笹やヤチダモ、コナラを伐採し人力で運び出した。コナラがいかに比重の重い木であることを、今も自分の肩が記憶している。木の皮むき作業や笹採りは炎天下の作業となった。最初は和気あいあい大勢で作業をしていたが、一人二人と減っていき、特に笹集めに難儀した。屋根、壁と笹あみが慣れてくると、笹取りが間に合わなくなってきたのである。江部乙、新十津川の山々にわけいり、形のいいクマイササをさがし刈り取った。最後に頼りになったのは家族労働で、自分の家族にはすこしすまないことをしたと思っている。

チセの歩みを振り返って

本学では、北海道内でも早い時期から、「アイヌ伝承」「アイヌ語」の講座を開設するとともに、アイヌ文化の研究と継承保存に取り組んできました。

平成13年には、言語学者でアイヌ文化の泰斗であった金田一京助の旧蔵書を中心とした金田一記念文庫を学内に開設するとともに、敷地内のアイヌの森にチセアカラの会・アイヌ・学生・市民等多くの人たちの協働によって、アイヌ文化を体現できるチセを復元しました。

チセはアイヌ語で「住居」を意味し、チセ内にある炉の火には神が宿るとされ、アイヌにとっての神聖な場であり、生活の場でした。

このチセを中心として20年間、アイヌ文化交流の集い「ペカンベ祭」をはじめとする、いろいろなアイヌ文化を体験できる場として、多くの人に利用されてきました。

ここでは、この20年間のチセの歩みを写真で振り返ってみました。

（コミュニティカレッジセンター 高橋由彦）

2001(平成13) 9月 チセノミ（新築祝い）

第1回アイヌ文化交流の集い（ペカンベ祭）
祭主・川上哲（北海道ウタリ協会旭川支部長）

2002(平成14) 9月 チブ（丸木舟）の復元、チブサンケ（舟おろし祭）
第2回アイヌ文化交流の集い（ペカンベ祭）

2003(平成15) 5月 ブ（食糧庫）、アンシル（便所）の復元
第3回アイヌ文化交流の集い（ペカンベ祭）
11月 チタラベ（花ごぎ）の復元

2004(平成16) 9月 アイヌ料理講習会
第4回アイヌ文化交流の集い（ペカンベ祭）
11月 イタ（盆）の製作

2010(平成22) 9月 イタオマチブ（海洋船）の復元
チブサンケ（舟おろし祭）

2011(平成23) 9月 第10回 アイヌ文化交流の集い（ペカンベ祭）
第11回 アイヌ文化交流の集い（ペカンベ祭）
祭主・伊沢一浩（北海道上川アイヌ協会会長）

2012(平成24) 9月 第12回 アイヌ文化交流の集い（ペカンベ祭）
祭主・藤村久和（北海学園大学名誉教授）

2020(令和2) 10月 第20回 アイヌ文化交流の集い（ペカンベ祭）
2021(令和3) 9月 チセ解体カムイノミ
チセ解体・撤去



⑲アイヌ料理

ハマナス・ペカンベご飯、オハウ（汁物）、サラダ、焼き魚。



⑲アイヌ料理を試食する参加者



⑨ブ（食糧庫）

高床式で、食糧がネズミ等に食べられないようネズミ返しがついている。



⑩チセでの授業

大学の授業やゼミナールが行われた。



⑪見学している地域の子どもたち

社会施設見学や遠足などで多くの子どもたちが訪れた。



⑫アイヌ文化を学ぶ子どもたち

アイヌ文化のことで質問する児童・生徒が多くいた。



⑬ムックリの演奏



⑭鶴の舞



⑮剣の舞



⑯輪踊り

アイヌ・学生・市民らが一緒になって踊った。



⑰イタオマチブ（海洋船）造り

チブ（舟）を改造して海洋用の船を造った。



⑱チブサンケ（船おろし儀式）

滝川公園で多くの参加者が見守るなかで行われた。



⑲沼にイタオマチブを浮かべる

子どもたちを乗せて浮ぶイタオマチブ。



⑳イヤレ（先祖供養）



㉑カムイノミ（神への祈り）



㉒神に捧げられている料理や供物



㉓20年間の営みを見守ったチセ（令和3年9月）

令和3年度特待生・奨学生決定

令和3年度の特待生・奨学生が決定しました。特待生は、健康にして学業人物ともに最優秀な2年生を対象に各学科から1名、奨学生は健康にして学業人物ともに優秀な2年生を対象に各学科から2名選ばれました。

特待生・奨学生の授与対象者は次のとおりです。

特待生

【国文学科】

相田 茉莉(新潟県)

【総合教養学科】

原 知穂(神奈川県:三浦学苑高等学校)

【幼児・児童教育学科】

岡村 昂胤(神奈川県:向上高等学校)

【国文学科】

山本 咲耶(北海道:帯広三条高等学校)

柿崎 光皇(千葉県:匝瑳高等学校)

奨学生

【総合教養学科】

村上 玲(神奈川県:創学館高等学校)

生田 雅士(神奈川県:横須賀学院高等学校)

【幼児・児童教育学科】

高瀬 優衣(北海道:新十津川農業高等学校)

中原 翔太朗(北海道:静内高等学校)

國學院大學編入学者決定

令和4年度國學院大學3年次への編入学者が決定しました。國學院大學の5学部11学科へ、167名(推薦)の学生が令和4年4月から東京渋谷キャンパス及び横浜たまプラーザキャンパスで学ぶことになります。なお、國學院大學以外の四年制大学では、現在国士舘大学2名、駒澤大学1名、文教大学1名の編入学が決定しており、この他複数の大学への編入学が予定されています。

学 部	学 科	推薦者数
文 学 部	哲学科	11
	史学科	21
	日本文学科	35
	中国文学科	2
	外国語文化学科	19
経 済 学 部	経済学科	22
	経営学科	22
法 学 部	法律学科	5
神道文化学部	神道文化学科	16
人間開発学部	初等教育学科	7
	健康体育学科	7
合 計		167

※出願をお待ちしております。

④「幼児保育コース奨学制度選抜」には、「授業料半額」という特典があります。保育士・幼稚園教諭にはなりたいたいけど、経済的に進学が難しいと考えている生徒さんがいれば、ぜひこの制度を勧めてください。

③「学科・コース特色型選抜」は、本学唯一の筆記試験で、各学科で出題形式が異なります。

②「大学入学共通テスト利用選抜」は、1月15日(土)・16日(日)に行われる共通テストを受験していることが出願条件となります。本学で利用する試験科目は、現代文と受験した科目の中で最高点1科目の2科目の合計点で選考します。

①「國大併願型一般選抜」は、國學院大學の一般試験(A日程やB日程)を受験していることが出願条件となります。A日程やB日程のスコアを活用した制度となっているので、本学へ来て受験する必要があります。

遊びにおいでよ！子育てサロン「ありす」



子育てサロン「ありす」は、子育て中のお父さん、お母さん、お子さんのための広場で、月に一度、本学のプレイルームで開催しています。対象者は、おおむね0～5歳未満の子どもとその家族です。

11月は人形劇を行いました。11月の子育てサロン「ありす」は、幼児・児童教育学科今野道裕教授と学生による、「人形劇を楽しむ」を行い、パネルシアター(野菜スプーン、やおの店)、手遊び(野菜のうた、手をたたきましょう)、最後は今野教授のひとり人形劇「だるまちゃん」とてんぐちゃんを行いました。

今野教授は、小学校教員28年、名寄市立大学15年勤務後、今年4月本学に着任し、専門分野は人形劇やおもちや・遊

びなどの「児童文化」です。ひとり人形劇団「オホーツク風雲ワクワク団」として活動し、道内各地で公演しています。滝川在住なので、末尾に「t」をつけています。

この日は、0才から3才までの子どもとお母さんが参加しました。0才の子どもも、パネルシアターや人形劇を、笑いながら食い入るように見ていました。お母さんが笑うと、子どもたちもつられて一緒に笑顔に。お母さんの笑顔は、子ども

もにとって、安心して、嬉しいものですね。

子どもたちのふれあいは楽しく、良い経験に

私たちはスタッフとして子育てサロンに参加しました。まず、通常の子育てサロンを開催している教室で子どもたちと触れ合いながら、今回のメインイベントである人形劇にスムーズに移れるよう、お互いの緊張をほぐしていききました。

その後、図工室に移動してパネルシアターに合わせて歌を歌い、手遊びを2曲行いました。初めての場所のせいにかかったのか、少し緊張していた子どももいましたが、元気な女の子がたくさん声を出してくれたおかげで、最後には



みんなリラックスして楽しんでいました。人形劇やパネルシアターでは、集中して見ている子、楽しんでいながら様々な子どもたちの反応が見られました。一緒に遊びながら直接子どもたちと関わるだけでなく、人形劇などでは子どもたちがどのような場面で反応するのかを知ることもでき、とても良い経験になりました。

令和4年度選抜試験が11月20日の試験を皮切りにスタートしました。昨今の選抜状況としては「早期出願」傾向が強まり、短大の出願者数も増加しました。年内選抜では初めて100名を超える出願者数となりました。

これからでも間に合う！
令和4年度選抜試験を紹介